

## 本会記事

### 2022 粉末冶金国際会議報告

今回 World PM 2022 Congress & Exhibition (粉末冶金国際会議) が、10月9日～13日の日程で、4年ぶりに FRANCE の Lyon において開催されました。規制が随分と緩和されたものの、コロナ禍の開催であり、出発前にはアジアからの参加がどのくらいあるのかと心配しておりましたが、展示会会場などで日本の方にもお会いすることができました。

フランスの第二の都市リヨンはパリから470キロ(東京-姫路)の距離です。日本の新幹線にあたるTGVで2時間、中世にヨーロッパでも有数の交易地として栄えたリヨンは、今なお古き良き古都の雰囲気が漂っていました。会場となった、Centre de Congress de Lyon は、ローヌ川が横に流れるテッド・ドール公園のすぐ近くで、庭には花が綺麗に咲き、カルガモやリスが顔を覗かせる中、朝からマラソンや散歩が楽しめ、昼間には動物園も開園しており、ゆったりとした雰囲気の中で World PM2022 は開催されましたが、久しぶりの対面開催の会議場は活気に満ちた場となっていました。

今回の発表件数は、Oral 239件、Poster 22件、Special Interest Seminar 13セッションにOral 37件、参加者は56か国以上から1000名(展示出展者、Visitorを含む)以上、展示は、300社以上と主催者から発表がありました。主催者発表ではありませんが、日本からは11件の発表、参加者は約30名でした。Poster発表の件数の少なさや、日本以外のアジア地域からの発表、参加者がほとんどなかったことは、やはりコロナ感染症の影響がまだまだあるのだと実感しました。

9日夕方からRegistrationが始まり、その後Welcome Partyが開催されました。各国から集まった仲間、友人と久々の対面が叶い、笑顔と会話の輪があちらこちらで見られました。

10日の朝からの開会式は、EPMAのAboussouan専務理事のWelcome speechにつづき、(EPMA) Carlström会長、(MPIF) Brennen会長、(APMA) Chu会長から各地域の現況報告がありました。また、当会理事、大阪大学の近藤勝義教授と他5名の方がEPMAのKeynote Paper Award 2022を受賞され、表彰式が受賞式に引き続き行われました。17時から近藤教授の記念講演があり沢山の方が聴講されていました。18時からPoster Award等の授賞式があり、授賞式に引き続き、日本粉末冶金工業会(JPMA)の伊井浩会長から2024年横浜で開催される「World PM2024 YOKOHAMA」の紹介があり、PR映像が放映される予定でしたが、映像が中々上手く映し出されず、11日にHöganäs ABの展示ブースにおいて同社の新作発表に続き、改めてWorld PM2024のPR映像を放映して頂きました。

11日には、当協会創立60周年記念事業の第11回国際研究集会参加助成を受けて参加しておられた、九州大学の重田雄二氏の発表がありました。英語での質疑応答にもしっかりと答えられていました。現在も年に2回、募集行っていますが、今後も当会の助成を利用し、多くの方に国際会議に参加し、発表を行って頂ければと思っております。

会期中の11日には、三団体(EPMA, MPIF, APMA)会議が開催されました。会議においてEPMAからは今大会の報告を含む、各地域の活動状況の報告がありました。また、次回のWorld PM2024についてPRが行われました。World PM2024は当会と日本粉末冶金工業会が共催します。2024年10月13日～17日、パシフィコ横浜で開催予定です。順次ご案内しますので、多くの方のご発表ご参加をお願いします。

(吉田泰子)

